

# 昭和大学新聞

## 第6回昭和上條医療賞授賞式

### 昭和大学医学・医療振興財団

公益財団法人昭和大学医学・医療振興財団理事長・山元俊憲が行う顕彰事業「昭和と上條医療賞」の授賞式が昨年12月16日、上條記念館で執り行われた。

同財団は、医学・医療に関連する領域の教育・研究・医療の実践者に対する支援事業を行うことにより、国民の健康増進に貢献することを目的に、平成25年4月に設立された。

その主要事業の一つである顕彰事業「昭和と上條医療賞」は、地域保健医療およ

び医学・医療分野の教育において創造的かつ先駆的諸活動で、大きな成果をあげた者またはグループを顕彰する。

今年度は地域保健医療員 献部門2件、医療人育成部門1件の計3件が選ばれ、木内祐二選考委員長からの審査報告の後、山元理事長から受賞者に表彰状とメダル、副賞が授与された。

授賞式後は各受賞者による活動内容が紹介され、その後の受賞者を囲んで活発な情報交換が行われた。



公益財団法人昭和大学医学・医療振興財団  
第6回 昭和と上條医療賞 授賞式

## 「昭和と上條医療賞」受賞者（敬称略）

### ■地域保健医療貢献部門：2件



鈴木 央  
(鈴木内科医院 院長)

「在宅医療、地域包括ケア推進」  
活動内容・選考理由

東京都大森地区での在宅医療・在宅緩和ケアを主導的に実践するとともに、在宅医療関連の各種学会や団体のオピニオンリーダーの一人として都内での在宅ケアを積極的に推進し、後進を育てる活動をしており、学生実習を含めさまざまな多職種研修にも取り組み、地域包括ケアを推進する人材育成にも努めている。約20年にわたる継続的な地域保健医療に対する功績を評価し、上條医療賞を授与するものとする。



布施 克也  
(魚沼市立小出病院 院長  
地域医療魚沼学校 校長)

「住民こそ医療資源」  
活動内容・選考理由

新潟県の魚沼地域の病院長として地域包括ケアの実現のための専門職種間の連携強化、地域住民の啓発などを目的に2011年度から地域医療魚沼学校を開設され活動を指導しており、「学生研修医が学ぶ」「多職種連携教育および共同実践の場」「住民が学ぶ」を3本柱にしたカリキュラムで2018年までに延べ28,000名が地域医療魚沼学校で学び、その成果の一つとして2013年以降医療費が全国の保健医療二次医療圏で最低を記録しつづけている。このような幅広く全国のモデルとなる地域保健医療への貢献を評価し、上條医療賞を授与するものとする。

### ■医療人育成部門：1件



千島 隆司  
(よこはま乳がん学校 代表  
横浜労災病院包括的乳腺先進医療センター長)

「乳がん診療における『患者中心のチーム医療』の実践と普及」  
活動内容・選考理由

2007年から主催しているよこはま乳がん学校で、毎年全国から集まった多職種を対象に講義講座を開放し、多様な学習の機会を提供するとともにグループワークによりチーム医療の実践と普及を図っており、よこはま乳がん学校のプログラム修了者は600名を超え、さらに青森乳がん学校、沖縄乳がん学校も開校し、合わせて修了者は1,100名以上になっている。このように日本の乳がん診療における医療人育成で大きな功績をあげていることを評価し、上條医療賞を授与するものとする。

学校法人 昭和大学  
発行人 小口勝司  
電話 (3784) 8000 内142-8555  
東京都品川区旗の台1の5の8  
1部 50円 毎月1回発行

### 2月号の内容

- 1面
  - ・第6回昭和と上條医療賞授賞式
  - ・EndoBRAIN®-EYEが医療機器の承認を取得
  - ・本学の認定看護師教育が認定手術分野と透析分野で開講
- 2面
  - ・マダガスカル国口腔蓋医療協力会の感想
  - ・令和2年度 医学部附属看護専門学校 一般選抜入学試験(1期)結果
  - ・ブルーウィングスが2連覇達成
- 3面
  - ・富士吉田キャンパスの思い出
  - ・植田紫衣生さんがPFA優秀学生賞を受賞
  - ・台風19号被災地へボランティア学生に感謝状が贈呈
- 4面
  - ・第二延山小学校のキャリア学習
  - ・昭和大学医学部同窓会「学術研究助成」募集のお知らせ
  - ・就任のお知らせ
  - ・昭和大学サポート寄付金寄付者氏名・上條記念館座席プレート申込み状況

【問合せ先】  
[本紙について：総務課出版係]  
03-3784-8059  
press@ofc.showa-u.ac.jp  
[各種募金・寄付・90周年事業について：企画課]  
03-3784-8387  
[学事について：学務課、大学院課、入学支援課]  
03-3784-8022 (旗の台)  
0555-22-4403 (富士吉田)  
045-985-6503 (横浜)  
03-3784-8026 (入学支援課)

## 本学の認定看護師教育が認定手術分野と透析分野で開講

入試日 令和2年6月20日  
開講日 令和2年10月1日

昭和大学認定看護師教育センターが認定看護師の手術看護分野と透析看護分野の教育機関として日本看護協会から認定された。

認定看護師制度の目的は、特定の看護分野において、熟練した看護技術及び知識を用いて、水準の高い看護実践を行う看護師である認定看護師を社会に送り出すことにより、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上を図ることである。

本学が認定された手術看護分野は首都圏に1校、透析看護分野は国内に1校の

み。同センターでは受講生を全国から広く募り臨床現場で活躍するスペシャリストを6か月かけて養成する分野毎に専門的で臨床に根差した教育を行うことにより、患者の健康回復や健康増進に向けた的確なケアを行い、さらには人々の幸福な人生を支えることのできるスペシャリストとなるよう認定看護師教育を行う。応募の詳細は4月に本学ホームページで公開する。担当透析患者の看護を5例以上担当。

### 共通

・高等学校もしくはこれに準ずる学校を卒業した者、または文部科学大臣の定める学力があること認められた者、日本国の看護師免許を有する者。

・看護師としての実務経験を5年以上有する者。

・次に定める各看護分野の実務経験を有すること。

・手術看護分野での通算3年以上の看護実績を有する者。

・手術看護における器械出し看護師・外回り看護師の実績を有すること。

・現在、手術看護部門で勤務していることが望ましい。

問い合わせ先  
横浜キャンパス 事務課内  
認定看護師教育センター事務  
045-985-6500 代表

## ディープラーニングによる内視鏡診断支援ソフトウェア

### EndoBRAIN®-EYEが医療機器の承認を取得

工藤進英特任教授「昭和大学横浜市北部病院消化器センター」らのグループが開発を進めてきた人工知能(AI)内視鏡画像診断支援ソフトウェア「EndoBRAIN®-EYE」が、臨床性能試験を経て、医療品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律「医薬品医療機器等法」に基づき、クラスII管理医療機器として2020年1月24日に承認を取得した。

大腸がんは日本人女性のがん死亡数の1位、男性でも3位と増加傾向で、効果的な対策が求められるがん種。その対策として、大腸内視鏡で早期がんや前がん病変である腫瘍性ポリープを切除することで、大腸がんによる死亡を大幅(53~68%)に減らせることが知られている。しかし、1回の検査あたり腫瘍性ポリープの約22%が見落とされている可能性が指摘されていた。

見落としの内訳として、大腸のヒダや便に隠れている場合、画面上でポリープが描出されていてもヒューマンエラーによって見落とされてしまう場合がある。

昭和大学横浜市北部病院消化器センターは、特に後者による見落としを防ぐことを主眼として、名古屋大学大学院情報科学研究科の森健策研究室(AIエンジニア)と連携し、大腸内視鏡で撮影された内視鏡画像をAIが解析し、ポリープ・がんなどを検出する警告を発し、医師による病変の発見を補助するソフトウェア「EndoBRAIN®」が開発された。

今回承認を進めてきたEndoBRAIN®-EYEは、大腸内視鏡で撮影された内視鏡画像をAIが解析し、ポリープ・がんなどを検出する警告を発し、医師による病変の発見を補助するソフトウェアであり、オリンパス社製の汎用大腸内視鏡(HAIビジョン画質以上)に導入可能で、多くの内視鏡機種と組み合わせで使用することができ、本ソフトウェアはAIの一種であるディープラーニングに基づき、約35万枚の内視鏡画像を学習しており、臨床性能試験では感度※95%、特異度※89%の精度で病変の検出が可能で、内視鏡医の支援に十分な精度を達成している。

※感度・特異度  
感度とは画像中に病変があるときにAIが正しく病変があると判定できる確率。特異度とは画像中に病変がないときにAIが正しく病変がないと判定する確率。